

いつき農地利用最適化推進運動

農委会名：五木村農業委員会

1 地域の概要

五木村は九州山地の西南端に位置し、13年連続水質日本一に輝いた川辺川が村の中央を流れ、1,000m級の山々が連なる山間地域である。村の総面積252.92km²のうち山林が96%を占め集落は点在し、令和2年3月末現在の人口及び世帯数は1,058人・497世帯、高齢化率が47.7%である。

道の駅の物産館では出荷協議会を組織し、それぞれの農産物や加工品を道の駅へ出荷しながら、ニンニクや米の生産組合など個々の部会でも生産拡大に向けた検討・実践が続いている。村でもソバ耕作者に対する支援のほか、在来柑橘くねぶの特産化に取り組んでおり、農産物生産事業や鳥獣害対策等に補助金を設けるなど支援や強化を図っている。

2 農業委員会の体制【平成29年7月～】

- (1) 農業委員数 6人（うち、認定2人、女性1人）※最適化推進委員は置かない。
- (2) 事務局体制 3人（兼任）

3 掲げた目標

人・農地プランの実質化に向けた取り組みを通して、意欲ある農業者の情報収集や、農地の利用意向の把握に努め、今後の農地集積につなげていく。

4 目標達成に向けた取り組み（運動）の内容

人・農地プランを作成している4つの集落で、プランの実質化に向けた説明会を開催し、地域の実情や将来方針について意見交換をおこなった。



5 取り組みの成果

農業委員会としては、事務局全員と農業委員（各集落1～2名ずつ）が説明会に参加。4集落について、アンケートによる調査結果や参加者から出た意見を取りまとめつつ、第2回、第3回と会合を実施し、農地集積を図っていくことに理解をいただいた。

また、参加者からは「自分たちの農地をこれからも守っていききたい」という意欲的な意見もあった。

6 課題と今後の方針等

- ・人・農地プランの実質化に取り組む中で、将来守るべき農地を検討していく。
- ・村内に点在する条件の悪い農地、再生困難な農地について非農地化の推進をしていく。
- ・ヤミ小作の現状を把握して解消していく。